平成２０年度長期社会体験研修修了報告書

研修者名　柳　　容　子（高等学校教諭）

研修先企業・部署名　NTT東日本群馬支店　法人営業部　業務推進担当

1　研修内容(2 月中旬までの主なもの)

(1)法人営業部における「総括業務，経理・契約業務」（4 月～10 月下旬）

●受付･電話応対　●郵便･宅配便の受付･受領　●｢業務用車輌｣管理　●｢食券｣管理･配布（毎月末）
●不要書類破棄、過年度文書類の電子ﾌｧｲﾙ化･ﾌｧｲﾘﾝｸﾞ　●資料作成（印刷、綴じ込み）
●｢法人営業部社員顔写真一覧｣作成　●｢勤務管理｣作業協力
●｢入札申込書類｣発送　●｢契約進捗状況一覧表｣　台帳作成･進捗状況入力

(2)法人営業部における｢営業･販売支援業務｣(10 月下旬～)

●｢お客様提案｣　確認資料作成･同行　●｢ひかり電話｣　工事手続き･お客様対応
●｢現場調査｣立会い同行　●｢機器の設定･設置工事｣同行

(3)「社員研修」の参加および｢施設見学｣

●｢MICE 研修｣（星野佳路氏　講演（6 月）藤原正彦氏　講演（9 月））
●｢Interrop2008｣（幕張ﾒｯｾ）見学（6 月）
●｢NOTE｣および｢NTT 武蔵野研究開発ｾﾝﾀｰ｣見学(10 月)　●｢交換局｣見学(12 月)

(4) その他の研修

●｢ｼﾆｱﾈｯﾄ群馬いきいき広場｣ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ講習会等ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ　●｢ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｿﾘｭｰｼｮﾝｾﾐﾅｰ｣参加

2　研修から学んだこと

(1)「企業の中」で過ごしたことによって学んだこと

①企業は社会の形成者としての大きな影響力と責任を自覚し、高い志を CSR などにまとめて公開し、社員の行動指針とすることでその実現を目指している。組織が志をもつことの重要性を学んだ。
②企業では、個々の社員は気負わずとも淡々と自分の役割を果たすことで、それぞれの良さが組織としての仕事に有機的に反映され、結果として大きな社会貢献ができるような仕組みが作られている。組織のもつ多様な可能性と組織構造の理想について学んだ。

(2)「学校の外」から教育を考えたことによって学んだこと

①学校教育は教育環境に左右されるが、その形成にも責任がある。全ての生徒が必ず教育環境である社会の構成者になるからだ。学力と克己心に裏付けられた広い視野と他者への思いやりを育むことで豊かで温かい社会をつくり、教育環境を向上させていくという学校教育の役割を改めて認識した。
②学校教育は卒業後の生徒にも責任がある。学校が、逆境や挫折に負けない｢しなやかな生き方の土台｣を作ることのできる学びの場だからだ。学びを通して芯の通った自己を育てることで、無限の可能性を秘めた生徒一人一人の未来を支える責任を果たしたい。時代の空気や単一の価値観に偏らない、長い目で見たそれぞれの人生の目標に基づく進路指導の重要性について再認識した。

(3)「普段と違う仕事」を体験したことによって学んだこと

より広い視野で仕事の到達点と立ち位置を確認し、｢ぶれない指針｣を持つことが仕事への意欲を高めるきっかけになる。研修で普段と異なる仕事を体験したことによって、こうした自分の特性を確認することできた。教師の仕事で無意識にやってきた意欲づけが、研修をきっかけとして顕在化した。自分なりの意欲づけの方法をひとつ持っていると様々な仕事の場面で応用できるということもわかった。生徒の｢ｷｬﾘｱ教育｣を考える上で大きなﾋﾝﾄが得られた。

3　所感

(1)「企業」と｢学校｣が共に目指すもの　～｢社会｣という｢教育ｼｽﾃﾑ｣の中で～

今回の研修では、研修員同士の情報交換から得るものも多かった。様々な企業の真摯な活動内容を知り、企業全般に対する共感が増したからだ。その結果、社会全体を一つの大きな教育ｼｽﾃﾑとして捉えられるようにもなった。多くの企業が高い志を持ち、それぞれの業務を通じて人材を育て、社会貢

献をし、よりよい未来を目指して頑張る一方で、学校は子供達を育み、社会に送り出すことでその営みを支えている。生徒を送り出す学校から転じて迎える企業の側の視点をもてたことで、視野が広がり、互いの距離をより近く感じられるようになった。それぞれ全く別の目的をもって活動しているように見える企業と学校に、根本には未来に向けた共通の大きな夢と志があると感じられ、勇気づけられた。

さらに、NTT 東日本で勤務管理への誠実な取り組みを見せていただいたことにより、企業と学校の教育上の一層の連携への可能性も見出すことができた。適正な勤務管理によるﾌﾟﾗｲﾍﾞｰﾄな活動時間の保証が、企業や学校での職責によらない、住民や親などとしての多面的な社会的役割に基づく人的交流を幅広く促進し、相互理解という形でそれぞれの職場に還元されることに気づいたからだ。多様な価値観の交流を促すﾜｰｸﾗｲﾌﾊﾞﾗﾝｽへの意識の高まりは、教育ｼｽﾃﾑを充実させる好機でもある。

(2)「商業科」教育の可能性　～業務体験からの検証～

研修による業務体験では、「商業」の専門教科としての意義を改めて実感することができた。経理や情報のｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄを目指していない一般的な生徒にとっても、学ぶ恩恵は十分に得られると確信した。今後一層より多くの生徒のために、使えることを意識した多角的ｱﾌﾟﾛｰﾁによる授業の充実を心がけていきたい。今回の研修の中で私が実際に業務に活用した教科内容はつぎのとおりである。

①「情報処理」で身につけるﾊﾟｿｺﾝ関連の基本的なｽｷﾙ・・・授業で習得したﾊﾟｿｺﾝのｽｷﾙを駆使すれば、事務処理を効率よく行うための工夫の幅を広げることができる。

②「簿記」「会計」「原価計算」の知識・・・これらを駆使すれば、会社全体の営みを俯瞰できる。独自ｼｽﾃﾑを使って財務処理を行う企業では、記帳技術そのものが使えるわけではないが、技術を学ぶ過程で培った知識は役に立つ。知識を活用すれば、勘定ｺｰﾄﾞから仕訳を導き出し、個々の業務が財務諸表に集約されるまでの道筋を洞察することができるからだ。決算書の中に自分の仕事の位置を具体的にｲﾒｰｼﾞできるようにもなり、担当業務への理解が深まり、やりがいが増す。

③「商業科」で学ぶ全ての科目の専門用語・・・学校で習った多くの用語に実務の中で出会うことの心強さは想像以上だ。これから社会に出て行く生徒達にとっても大きな心の拠り所になるはずだ。

(3)生徒のために実践したいこと　～「意欲の源」を育てる～

通信業界では時代とともに業務内容が著しく変化してきたため、その度に NTT 東日本の社員の方々の多くがそれまでの技能や経験をご自身の中に封印し、一から新たなｽｷﾙを構築されてきたと知った。そして、社員の方々の中にそれらの技能や経験が個性として生かされているのを垣間見たことで、確固としたｷｬﾘｱに裏打ちされた自信がもたらす力の大きさに気づくことができた。

変化の激しいこれからの時代を生きる生徒達にもそんなｷｬﾘｱに代わる自信の源が必要だ。学校は多様な活躍の場と承認の機会を提供することができる。生徒の特性に合わせて、一人一人に何かしら頑張らせ、評価し、承認をしてから社会に送り出したい。自己の努力に対する正当な認識と他者からの承認が大きな自信につながり、この先出合う困難に自ら努力し立ち向かっていくための「意欲の源」になると考えるからだ。現実には、頑張ること自体がとても苦手な生徒もいるし、一人一人頑張れる内容も質も違う。より多くの生徒が「意欲の源」を育てられるように、私自身も常にｱﾝﾃﾅを高く伸ばして自ら研究し、やるべきことを見つけて実行することで、愚直に、より的確な指導を求めて実践を重ねていきたい。

(4)おわりに

今回の研修で、NTT 東日本群馬支店の皆さんには、温かく受け入れていただいた上に、様々な担当部署で様々な業務経験の機会を与えていただき、お忙しい中、数々のご指導もいただいた。いずれの部署のいずれの業務も専門的で奥が深く、その点に関していえば、私は短期間、ごく表面的な体験を得たに過ぎない。しかし、いろいろな「仕事」を間近で見せていただき、共に業務に携わった方々の多様な「想い」に直接触れさせていただいたことによって、多くのことを学び、「教育の仕事」を続けていく上でのかけがえない財産を得ることができた。末筆ながら NTT 東日本群馬支店の皆様をはじめ、ｼﾆｱﾈｯﾄ群馬ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｽﾀｯﾌの皆さん、取引先企業の皆さん、業務を通じてお世話になった全ての方々に改めて心からの感謝を申し上げたい。また、貴重な研修の機会を与えてくださった群馬県教育委員会および総合教育ｾﾝﾀｰの方々、校長先生をはじめとする勤務校の先生方にもお礼を申し上げたい。